

16 / 1 / 23 上毛新聞

ルネサステクノロジ

高崎市内に技術開発拠点を持つ、半導体開発・製造の国内最大手「ルネサステクノロジ」（東京都千代田区）と群馬大工学部は二十二日、県庁で記者会見し、

同大学院工学

研究科（桐生市天神町）に、同

社の寄付講座を六月に設置する

と発表した。急

激なIT化にあわせ、産学連携で社会で求められる世界トップレベルの研究に取り組み、技術者の養成にも努める。

講座名は「ルネサステクノロジ先端アナログ回路工学講座」。

群馬大工学部大学院

先端アナログ 世界レベルに

同社は昨年四

月、日立製作所

と三菱電機の半導体部門が独立合併して設立され、半導体メーカーでは売上高世界三位。大学側に対し、「先端アナログの分

野で自由に研究してもらい、三年で国際学会で通用するレベルに達してほしい」と期待している。

三年間にわたり、この分野で一流の国内大学教授二人を招へいし、研究開発の拠点を目指す。寄付金は三年間で約九千万円。

先端アナログ技術は、携帯電話や先端医療機器などの性能を左右する重要な技術。携帯機器の電池寿命を延ばす高効率電源技術などが含まれる。

群馬大に寄付講座

アナログ回路を研究
ルネサステクノロジ

部の寄付講座は初めて。

「ルネサステクノロジ先端アナログ回路工学講座」の名称で三年間実施する。ルネサスは群馬大に三年間で九千万円を寄付する。教授として専門の研究者を二人招へい。最新のアナログ技術の調査や研究、大学院生への講義や論文の指導を行う。毎年五人ほどの指導を予定している。

アナログ技術は携帯電話やハードディスク、先端医療機器の集積回路に使用されており、高周波化や省電力化に対応した技術開発が重要となつてきる。ルネサスは自社の技術課題などを講座に研究テーマとして提示するなど、連携を図る方針。

半導体製造大手のルネサステクノロジと群馬大は二十二日、六月から群馬大工学部に寄付講座を設置すると発表した。微弱な信号をデジタル信号に置き換えるアナログ集積回路に関する技術の研究開発や、技術者の育成が目的。アナログ技術は今後、市場の伸長が見込まれており、これまで不足していた大学での技術教育を充実する。同学

日刊工業新聞

16、1、23

群馬大

ルネサスの寄付講座開設

6月、工学研究科に

【前橋】群馬大学工学部は22日、ルネサステクノロジの寄付講座「ルネサステクノロジ先端アナログ回路工学講座」を工学研究科に6月に開設すると発表した。デジタル回路の高性能化・差別化を支えるアナログ回路関連技術の研究開発や人材育成を推進する。

群馬県は、大学主導の

研究会や関連企業の連絡協議会を発足させていく。同講座の設置による研究機能の強化を地域内のアナログ技術振興になると発表した。デジタル開発拠点を目指す。

群馬大は同講座を大学院工学研究科電子情報工学専攻に設置。民間の研究者2人を客員教授として招き、産学協同の教育

研究体制を敷く。産業界からの要望である実践的技術者の養成をはじめ、先端アナログ回路に関する新技術の創出や応用駆動型の研究開発を進める。設置期間は3年間で、寄付金額は合計で約9000万円。

群馬大はアナログ技術者の研究教育を加速している。三洋電機と連携大

学院の開設やアナログ関

連の客員教授を招聘したほか、昨年10月には「アナログ集積回路研究会」を発足。

また、4月にはルネサスと連携大学院を開設する。同講座を加えた研究教育体制の充実を通じて、「アナログ集積回路設計センター」の設立も視野に入れている。